

3 回戦

2015 年度秋季リーグ戦
第5週 10月2日
1勝2敗

チャンスに一本出ず…

亜大2-1駒大

勝ち点落とす



【上】中一日での先発となった東野

勝ち点を取るためには絶対負けられない3回戦。4投手の継投も、亜大打線に2点を許してしまふ。打線は9回に一点をもぎ取ったが、逆転にはつながらず、勝ち点を取ることができなかった。

(文3)が右前安打で出塁。犠打と死球で塁を進めると、前田滉平(法4)が左前安打を放ち、二死満塁の好機を作るも、後続が続かず三振。この日最大のチャンスをつかむことはできなかった。

1点を得る。なおも二死1、3塁の好機であったが、後続が打ち取られ試合終了となった。中1日で先発した東野龍二(商2)は5回、死球で走者を出すと、適時二塁打を浴び一点を失い降板。亜大打線に苦しめられた投手陣は、8回にも1点を許した。

西村亮監督は「最後は追い上げたが全てがあと一歩だった」と振り返る一方、「負けはしたが、そういう姿勢が見えてきたので残りの5試合でしっかり出したい」と勝利に向けて意気込んだ。

文Ⅱ高橋晶子
写真Ⅱ斉藤広樹

駒大 000 000 001=0
亜大 000 010 01x=2

打安点	
(4)米満	200
H田中佑	100
(8)小川	210
(6)前田	310
DH永山	410
(3)恒川	410
R林慧	000
(7)2岡田	410
(5)巻木	400
(9)7中川昌	310
(2)高橋亮	100
H青地	110
R島田	000
9長谷川	000
H松尾	111
計	3081

回 打安責	
●東野	5 2041
高橋由	21/3 1011
白銀	100
今永	02/3 210

HEROES

#35 恒川大輝

2回戦、7回二死1塁の場面で打席に入ったのは代打恒川大輝。思い切り振り抜いたボールはライトスタンドへ吸い込まれ、試合を決定づける二点本塁打となった。

西村亮監督から「しっかり振れている」と評価される恒川はこの夏頭角を現し、今秋の専大1回戦で東都デビューを果たすと、亜大1回戦では初ヒット。2回戦では本塁打と着実に結果を残している。

「小技よりかは大きなのを狙いたい」— “打撃の駒大” 復活へ。恒川のバッティングに期待だ。

(斉藤広樹)

